

（農薬を使用する従来農業の立場）

私は、現代社会においては「農薬を使用する従来農業」の方が、より社会にとって有益であると考えます。理由は、安定した食料供給を維持し、価格を抑え、人口増加が続く世界において必要な量の作物を生産できる体制を確保するためです。

まず、農薬使用の最大の利点は高い収量と安定性です。害虫や病害は農作物に大きな損失を与えるが、農薬はその被害を大幅に軽減し、天候不順や病害が多い年でも一定の収量を確保できます。これは、特に日本のように農地面積が限られ、気候の変動も大きい国にとって極めて重要である。もし農薬使用を大幅に制限すれば、生産量は減少し、結果として食料自給率の低下や輸入依存の増大を招く危険がある。

次に、農薬を使用した農業は食材価格を抑える役割を果たしている。オーガニック農業は手間がかかり収量が少ないため、必然的に価格が高くなりやすい。価格の上昇は消費者、とくに経済的に余裕のない層にとって大きな負担となる。食は全ての人に必要な基盤であり、社会全体の利益を考えるなら、誰もが適正な価格で食料を得られる仕組みを維持することが重要である。

もちろん、農薬使用には環境への影響という課題がある。しかし近年は、農薬の使用量を最小限に抑えつつ効果を高める技術や、選択性が高く生態系への影響が小さい農薬も開発されている。また、散布量を適切に管理することにより、従来農業の環境負荷は大幅に削減可能である。つまり、「農薬を使うか・使わないか」の二項対立ではなく、使用する農薬をより安全に、より賢く管理していく方向が現実的である。

以上より、食料安全保障と価格の安定、そして技術進歩による環境負荷低減の可能性を踏まえると、現段階では農薬を使用する従来農業の方が社会にとってより有益であると考えます。

（オーガニック農業の立場）

私は、農薬を使用する従来農業が高い収量と価格の安定に寄与していることを理解しつつも、長期的に社会の利益を最大化するのは「オーガニック農業」であると考えている。理由は、環境・健康・持続可能性という三つの観点で、オーガニック農業がより未来志向の価値を持っているためである。

まず、オーガニック農業は環境負荷を大幅に軽減できる点で社会的意義が大きい。化学合成農薬は土壌微生物や昆虫、多様な生態系に影響を与える可能性が指摘されており、長期的には土壌の劣化や生物多様性の損失を招く懸念がある。これに対し、オーガニック農業は自然の循環を活用し、土壌の保全や生態系の維持を図る農法であるため、将来世代に引き継ぐ農地の健全性を確保しやすい。気候変動が農業を脅かしている現在、環境負荷を抑える取り組みは社会全体の安定にもつながる。

次に、健康面における利点も無視できない。科学的に農薬が一定の基準のもとで管理されていることは承知しているが、それでも農薬残留への不安を抱く消費者は一定数存在する。オーガニック食品は「化学物質への曝露を可能な限り減らしたい」という消費者ニーズに応えるものであり、食の安全・安心の観点から重要である。また、環境負荷の少ない農業は水質保持にも貢献し、地域住民の健康リスク低減にもつながる。

さらに、オーガニック農業は持続可能な農業モデルとしての価値を持つ。収量が低いという課題はあるが、土壌の肥沃度向上や自然生態系を利用した病害虫管理など、長期的に安定した生産を可能にする技術も確立されつつある。また、価格の高さについても、需要拡大と技術進歩により徐々に改善される可能性がある。オーガニック農業を社会が支えることは、持続可能な消費行動や地産地消の推進にもつながり、地域経済にも好影響を与える。

以上より、短期的な収量や価格だけでなく、将来世代への責任や環境・健康への影響を考えると、私はオーガニック農業がより社会にとって有益であると考えている。